令和4年度　鳳凰高等学校自己評価表

学校経営方針	教育基本法及び学校教育法を礎に、本学園の建学の精神である**「誠実にして社会に役立つ情操豊かな人間教育」**の実現のために学園の総力を集結し、その教育成果をもって地域社会の信頼に応え、開かれた学園として社会に貢献する。
教育目標	**誠　実**（1）思いやりを持ち、他者への感謝の気持ちを忘れない生徒の育成 （2）確たる自分を持ちながら、他を認める精神を併せ持つ生徒の育成 （3）挨拶を軸とした礼儀作法の涵養による健全な心身の育成 **社　会**（1）あらゆる変化にも柔軟に対応できる人材の育成 （2）価値観を認め合い、他者と協力しながら問題を解決できる生徒の育成 （3）主体性を持ち、地域社会に貢献できる人材の育成 **人間力**（1）最善を追い求める姿勢の育成 （2）物事の本質をとらえ、論理的に考える力の育成 （3）困難を乗り越えるため創意工夫する力の育成

＊100点満点

評価項目	具体項目	目標	具体的方策	評価	前年度	成果と課題
1　学校経営　　全職員が共通の理念に立った学校経営の参画における教育的成果の評価						
（1）	学校経営方針	経営方針の明確化とその実践	経営方針が学校内外に明確に示され、教職員間の相互理解と保護者・地域の支持に基づく教育活動を行う。	明示された中長期の学校経営ビジョンを全教職員が共有し教育実践に努める。	85	85	学校経営方針を教職員が理解し、共有し教育を実践している。取組とその成果の発信方法についてはより効果的な方法を実施していく最中である。
				教育方針や育てたい生徒像を生徒・保護者・地域社会等に対して明確に示す。	75	78	
（2）	学校教育	学校教育目標の具現化	学校の実態に即した目標が設定され、教職員間の共通理解のもとに、教育目標の具現化を図る。	建学の精神に則った適切な目標を設定する。	83	83	建学の精神に基づく教育の3本の柱を共通理解した上で目標に沿った指導を実践することが大切である。中でも重点4項目に対し具体的に取り組んだ。
				教育課題や生徒の実態を踏まえて、本年度の重点目標を設定し、具現化に努める。	83	83	
（3）	学年経営	学年目標の具現化	学校目標に沿った学年目標による経営を行う。	学年目標の教員・生徒への浸透を図り、その目標達成のための教育活動を展開する。	80	83	学年部会は定期的に開催され情報共有・共通理解が図られた。あわせて5学年の主任間の共通理解にも取り組んだ。
				学年部会を月1回以上開き、目標達成状況、指導上の課題や学年行事等について職員間の共通理解を図り、統一的な指導を行う。	88	90	
（4）	学級経営	学級目標の具現化	学校目標及び学年目標に沿った活気あふれる学級づくりを行う。	学校・学年目標に沿って、学級の実態に応じた学級目標を設定し、意欲的な学級経営を行う。	83	83	意欲的・主体的な学級経営という表現を用いればやや疑問符も付く。生徒に自信を持って向き合うためにどうしたらよいか研修等を通じて研鑽を積む必要もある。コロナが明け、通常の学校行事が再開するにあたり、様々な形で熱意ある情報発信をしながら活気溢れる学級づくりを期待したい。
				個別面談を学期に1回以上実施し、生徒の多面的理解を深める。	85	78	
				生徒が主体的・意欲的に活動する学級経営に努める。	85	83	
				学級通信を定期的に発行し、担任の熱意にあふれた情報発信を行う。	75	75	

(5)	学科経営	学科目標の具現化	学校目標及び学科目標に沿った学科づくりを行う。	学科目標の教員・生徒への浸透を図り、その目標達成のための教育活動を展開する。	83	80	コロナ禍ではあったが、徐々に回復傾向になったことが追い風となり、専門学科の実習において受け入れも可能になってきた。各学科は学科目標の実現に向け、様々な創意工夫がみられた。
				学科会議を月1回以上開き、目標の達成状況、指導上の課題や学科行事等について職員間の共通理解を図り、統一的な指導を行う。	88	88	
2 教育活動　教育活動全般における教育的成果の評価							
(1)	教育課程の編成	創意工夫された適切な教育課程の実施	学習指導要領の趣旨が生かされた特色ある教育課程を編成する。	各学科・コースの特性や個々の生徒の進路に適した教育課程を編成する。	90	90	学習指導要領改訂により、新たな学習評価規程が導入された。それまでの評価方法の準備により適切な評価が出来たと言える。反省点に於いては次年度に活かしていく。
				教育課程の実効性や、教育目標の達成状況を定期的に検証する。	85	88	
(2)	教科指導	わかる授業の展開と工夫・改善	創意・工夫がなされた学習指導を行う。	各教科科目の年間指導計画(シラバス)を作成し、学習目的や学習方法を事前に生徒に説明する。	80	78	新たな学習評価規程が導入され、観点別の評価方法を試行錯誤、模索しながらの1年であった。各教科担当者は日々工夫をした授業を展開しているが、新たな指導法、評価法を互いに共有することで更に授業力向上につながれば良いと思う。そのために研究授業を積極的に実施することが必要となる。
				教材研究や指導力の向上に努め、効果的な授業を行うために研究授業に積極的に参観したり、自らも研究授業を実施する。	80	78	
				わかり易い授業を推進するために、生徒による授業評価を定期的に実施する。	83	80	
(3)	特別活動	ホームルーム	学校・学年の教育目標に沿った年間計画により、活発な活動を行う。	年間計画に基づいて、事前準備をよく行い、活発なホームルーム活動を実践する。	70	70	コロナ禍ではあったが、回復傾向を受け大抵の行事は実施できたため、徐々に従来の活気が戻りつつあった1年であった。今後は生徒会活動を中心とした上で、効果的で充実した学校行事が運営出来るよう計画を立て実践していく必要がある。
		生徒会活動の充実	生徒の自主的・自発的な活動を推進する。	生徒の自主性を尊重し、積極的・意欲的に活動に参加させる。	78	75	
		学校行事の充実	生徒の実態に即した効果的な行事を企画運営する。	効果的な学校行事となるよう生徒・保護者の意見も参考にしながら常に工夫・改善を行う。	78	78	
(4)	生徒指導	基本的生活習慣の「見届ける指導」	中途退学を未然に防ぐための生徒理解に務め、基本的生活習慣の定着や交通マナーを遵守させる、きめ細やかな指導を行う。	欠席のない、けじめあるクラスづくりの実践。	75	80	前年度に続き、生徒指導における重点4項目「挨拶」「清掃」「服装容儀」「スマホ・タブレット」が示され、具体的に取り組んだ。しかし、クラス格差が見られたのが現実である。今年度はクラスでの挨拶訓練も実施予定であり、全体的な服装容儀面の見直しも含め、生徒指導に重点を置いた徹底した指導をしていく必要がある。
				服装・容儀の徹底指導。(特に頭髪・スカート丈)	80	85	
				挨拶の励行・時間厳守の浸透。(始業時間に授業がスタート)	88	88	
				交通安全指導の徹底(違反者・事故者ゼロを目標)	78	83	
				教育相談・健康相談・悩みの相談など多角的な生徒理解の推進	90	93	

(5)	進路指導	進路指導の充実	系統的・計画的な進路指導を行う	進路実現に向け、模擬試験や検定試験などを計画的に行う。	80	80	コロナ禍ではあったが模試や検定など計画的に実施出来たと言える。三者面談などは十分な時間の確保は難しかったが工夫して取り組んだ。今後は進路実現に向け更なる取組をしていきたい。
				進路実現に向け、講演会や三者面談・卒業生との交流会などを行う。	73	75	
				職業観・職業意識を醸成するための効果的な現場実習を体験させる。	70	65	
(6)	人権教育	人権尊重に対する普遍的価値観の育成	人権尊重に関する様々な課題を認識させ解決のための実践力を身につけさせる。	日常の教育活動の過程において、人権尊重の精神を培うことにより、互いに助け合い協力しながら課題を解決しようとする態度を育成する。	83	85	寮生や看護・福祉を学ぶ生徒が多いので、日常生活の中で思いやりや他者との協力の大切さを体得している生徒がほとんどである。一方、寮生における上下関係等、改善の必要もある。
(7)	部活動	部活動の活性化	部活動への参加を奨励し、活発な活動を行う。	部活動への積極的な参加を奨励し、学校生活の満足度を高めるとともに、学習との両立ができるよう支援する。	80	75	部活動への参加の推奨はしているが入部率としては決して高いとは言えない現状である。部活動生は、コロナ禍で感染対策に努めながら人間形成、技術力向上等に向け一生懸命に取り組んだ。
				部活動を通して、達成感や挫折感等を共有する過程で、忍耐力及び協調の精神、コミュニケーション能力などのたくましい人間力を育む。	80	78	
(8)	ボランティア活動	ボランティア活動の充実	ボランティア精神の高揚を図る。	ボランティア情報を提供し、積極的・主体的な参加を奨励する。	73	70	ボランティア活動の情報発信がやや少ないこともあり、積極的な参加には至っていないのが現状である。今後は日ごろの清掃活動や学校行事の充実を図ることで奉仕の心を育成したい。
				施設訪問や環境美化など、身近で取り組みやすい活動の機会を設定し、奉仕の心を育成する。	80	80	
(9)	資格取得	各種資格取得奨励	個に応じた指導の一環として、各種資格取得を奨励する。	英語検定、漢字検定、ワープロ検定等に挑戦することを奨励し、学習意欲の喚起につなげる。	75	73	学科の取り組みや個人による格差が大きい.積極的な呼びかけや奨励が必要である。
3 組織運営　教育活動の円滑化、教師集団の協働性に関わる教育的成果の評価							
(1)	校務分掌	適切な役割分担、組織的な活動と運営	各自の役割分担が明確であり、分担に応じて適切に校務を処理する。	年度の実態に応じ、各分掌の課題確認と分掌業務の改善に努める。	88	88	各分掌業務は各部署長を中心に適切に処理されている。定期的な会議はもちろん、アプリ「teams」も活用しながら相互連携をとっている。
				校務全体の円滑な推進のため各分掌間・学年・学科間の相互連携を図る。	83	85	
				分掌ごとの業務記録、資料の保存に努める。	83	83	
(2)	校内研修	研修体制の確立と実践	計画的・組織的に授業研究などを行う。	生徒の実態や本校の課題を踏まえ、全教職員による校内研修を年2回以上行う。	85	88	全教職員による定期的な校内研修を計画的に実施できた。現在は、学校戦略支援室を中心よし教職員研修計画に新任・中堅・ベテランそれぞれキャリアに応じた具体的な取組を計画し、今後実践していく予定である。中長期的に取り組んでいく。同時に個々の能動的な姿勢も欠かせな
				指導実践力の向上を図るため研究授業及びその授業研究を各教科とも年1回以上行う。	63	68	
				校外研修の受講者が、必要に応じてその内容を他の教職員に伝達する機会を設ける。	73	73	
(3)	現職教育	教職員の資質向上への取り組み	教育センター、各種教育研究会などの研修に積極的に参加する。	教育センター・私学協会・各教科教育研究会で開催される研修会に計画的・積極的に参加し、教職員の資質向上を図る。	83	83	今年度はオンライン研修や自己研鑽などでほぼ対応した。今後は積極的な研修案内を促したい。

4 教育環境　学校の置かれている条件や環境に関わる教育的成果の評価							
(1)	学校環境整備	快適な生活環境の整備	日々の清掃活動を充実させ、美化意識を高めるとともに、節電・節水など省エネ運動にも取り組む。	日常の清掃活動に全校生徒、全教職員で積極的に取り組む。	90	90	生徒指導における重点4項目に「清掃」が揚げられている。評価点は高いが実際の取組には個人格差が否めない。今一度原点に立ち返り、教職員が率先垂範の姿勢で生徒と共に取り組む雰囲気作りに時間を掛けて努める必要がある。
				特別な清掃活動(大掃除・愛校作業など)を月1回以上実施する。	85	85	
				省エネ運動を推進し、電気・水道使用料を前年比減に努める。	88	88	
(2)	施設設備の管理	有効活用と安全管理	施設・設備の有効活用が図られ安全点検等の管理を適切に行う。	施設・設備の安全点検や補修を月1回以上行い、環境整備の保全に努める。	85	85	毎週末の査察において、全教職員で施設・設備の安全点検を実施しているが、確実な点検と記録が求められる。
				日常の教育活動においては、施設・設備の安全運用を最優先とする。	90	90	
(3)	情報インフラの設備の充実	教育活動全般の情報化	パソコン等を使った校務処理を適切に行う。	パソコンによる校務処理を推進してデータの共有化を図り効率的な事務作業を行う。	93	93	情報管理部が中心となって、教務部と連携しながら成績処理や校務処理について毎年改善されている。オンライン出願についても導入1年目となった。同時に教職員間での研修や共通理解が求められる。
				パソコン上の生徒情報等の管理の徹底を図る。諸帳簿類の保管管理体制を整え、適切に運用する。	90	93	
5 開かれた学校づくり							
(1)	保護者との連携	協力体制の確立	生徒に関する情報を相互に交換する。	保護者との個別面談を年1回以上行い、生徒の状況について学校と保護者が緊密に連絡や情報交換を行う。	75	75	今年度もPTA総会や地区PTAにおいては中止とし、具体的なPTA活動や保護者との向き合いはできなかったため、オンライン面談やGメール配信などで工夫を凝らし対応してきた。5年度はPTA総会や地区PTAも実施予定であるので、これまで以上の保護者との密な連携を図ることが期待出来る。
				PTA総会・地区PTA・保護者会などを活用し、生徒の状況について説明を行う機会を設定する。	68	65	
		PTA活動の充実	支援と活性化を積極的に図る。	自主的なPTA活動が活発に展開され、学校もその活動を積極的に支援する。	65	68	
				PTA関係の会議への参加率向上に努める。	63	65	
(2)	地域や関係機関との連携	学校間連携の充実	他校や異校種との必要に応じた効果的な連携を行う。	関係中学校や大学等との情報交換や連携に努める。	68	68	制限がある中、「南さつま飛び立て高校生事業」や学科、部活動単位で積極的に地域と連携ができた。中学校行事への職員や生徒派遣なども充実していた。
				地域などからの苦情に対し、適切に対応できる体制を整備するとともに、改善をすみやかに行う。	70	70	
(3)	学校情報の公開	ホームページの更新	ホームページを見やすくし、定期的更新を行う。	学校情報の積極的発信に努める。	68	70	広報部・情報管理部を中心に学校や生徒の様子をリアルタイムに発信できた。各部署からの発信が増せば更に閲覧も広がると期待する。

【総評】

<table>
<tr><td rowspan="5">評価の結果
（課題と問題点）</td><td>【総評】
(1) 学校経営全般について
ここ近年の動きとして、様々な研修を定期的に行い、新しい学校運営を模索するなど、教職員の自己研鑽に努めた動きが活発に行われている。全教職員に浸透させ、全生徒に伝わることが今後の課題である。</td></tr>
<tr><td>(2) 教育活動全般について
令和4年度より、学校評価の規程が導入され、事前研修会等を開き対応した。全教科が対象のため、様々な反省点も出た。反省点が繰り返されないことが重要である。コロナ禍でありながらもここ数年の様々な対応から工夫も生まれ、スムーズに実践できている。</td></tr>
<tr><td>(3) 組織運営全般について
教育活動を運営するためには組織的に対応が不可欠である。全体的には意識も高く、各部署の動きは活発であるかのように振り返る。今後は組織の末端までスムーズな動きや全部署が稼働しているかの確認が必要である。</td></tr>
<tr><td>(4) 教育環境全般について
適宜、改修等を要する箇所は、学園と協議し対応をしている。今後も教職員の点検等を徹底し、対応の優先順位を見極める必要がある。教育活動の中に、清掃活動や共有物の利用の仕方など、意識が薄い面も対応する必要がある。</td></tr>
<tr><td>(5) 開かれた学校づくりについて
ホームページをはじめ、各媒体等を利用して、学校の現状等、外部への発信は定期的に行われていた。発信だけでなく、受け手に確実に届いているかの確認等も必要と考える。また、適宜、現状の振り返りと改善が今後の課題である。</td></tr>
<tr><td rowspan="5">今後の改善策</td><td>(1)学校経営全般について
良しとする取り組みは、日々改善し継続させる。旧態依然の取り組みにしがみ付くことなく、現状に合った具体的な学校経営を行う。そのために各部署会等を活発的に行い、改善させる。</td></tr>
<tr><td>(2)教育活動全般について
今年度よりコロナ禍で制限された様々な教育活動を本来の姿に戻すことになる。感染対策を継続させつつ生徒が意欲的に取り組む活動になるよう工夫していく。その中にも躾教育を織り交ぜ、人間力向上につながる教育活動を模索し、実践する。</td></tr>
<tr><td>(3)組織運営について
教職員の意識改革および向上の働きかけの継続を学校全体で行っていく。校内研修を基本に積極的な参加状況（出席率）を把握し、多くの教職員のスキルアップの場を確保する。</td></tr>
<tr><td>(4)教育環境全般について
教職員による現状把握（毎週の査察）の確実な実践はもちろん、校内美化および生徒共有物の利用の仕方などの生徒への具体的な指導を強化していく。</td></tr>
<tr><td>(5)開かれた学校づくりについて
発信だけで終わるのではなく、確実に伝わっているか、受け手の感想など、アンケート調査や保護者の感想を受けるなど、現状把握と分析、改善できるよう努める。</td></tr>
</table>